

10月29日 開聞岳

竹原 順治

山名	開聞岳	山行名	屋久島・九州南部
ルート	ふれあい公園駐車場→二合目登山口→山頂→二合目登山口→駐車場		
山行日	2021/10/29	天候	快晴
参加者	リーダー：山下隆 サブリーダー：西川洋 男性：竹原順治、永井繁一 女性：竹原絹栄、大林京子、上田秀子、和田千恵、伊藤多恵子 合計：9名		

ルート概略図	コースタイム					
	地名	時：分	地名	時：分		
	ふれあい公園 駐車場	集	9:00	頂上	着	13:05
		発	9:20		発	13:45
	二合目 登山口	着	9:30	仙人洞	着	14:40
		発	9:35		発	14:50
	六合目	着	11:00	六合目	着	15:25
		発	11:05		発	15:30
	仙人洞	着	11:45	二合目 登山口	着	16:30
		発	11:55		発	16:35
	九合目	着	12:20	ふれあい公園 駐車場	着	16:45
		発	12:25		発	

山行報告

ふれあい公園駐車場にレンタカーを止め、管理棟のトイレを借りて登り基調のアスファルト道を登山口に向けて進めば、目の前に見事な富士山型の開聞岳が我々を迎えてくれる。思わず立ち止まってシャッターを切る。登山口は既に二合目で、雨水で浸食された火山性粘土質の黒くて細い溝道がしばらく続き、やがて、噴火の痕跡である小石がゴロゴロした道に変わっていく。木々に覆われて景観がきかない、「人の口車と石車には乗るな」という戒めがぴったりの、穏やかな一途の傾斜道が六合目(標高 585m)辺りまで続く。しかし、七合目(標高 685m)辺りからこの状況は一変する。石や岩が多くなり始め、急な坂が増えてくる。北方から山の東側を南下しながら巻いて高度を上げてきたコースがほぼ山頂の真南に来たところで、昔の噴火口跡である仙人洞(標高 712)に至る。時々視界が開けて望める海と陸影(その方向から鹿児島湾口と大隅半島先端あたりであろう)が、連なる巨石・巨岩を伝って高度を上げて行く登山者の疲労と緊張を癒してくれる。険しい岩登りが続きペースが落ちる。9合目(標高 815m)まで来れば、最後の難関、梯子に続いて巨石の急登のよじ登りが待っていた。一息ついてそれを登り切った所が 360 度視界の開けた絶景の頂上だった。頂上は意外に狭い岩場だが、各々自分の場を確保し、民宿提供のご飯を、心強い我が料理長の握ってくれたお結びを頼張る。一息ついて頂上の標識を中心に今朝通ってきた開聞駅周辺の家並みとその背後の池田湖を背景にして、親切な父娘に集合写真のシャッターを切ってもらおう。

この山行を一言でいえば、「開聞岳は広い裾野で優しく登山者を迎え、7合目以降で登山の厳しさに直面させ、山頂で達成の喜びを味わわせてくれる山」です。

ヒヤリハット なし

感想駄文 ああ開聞岳…

伊藤多恵子

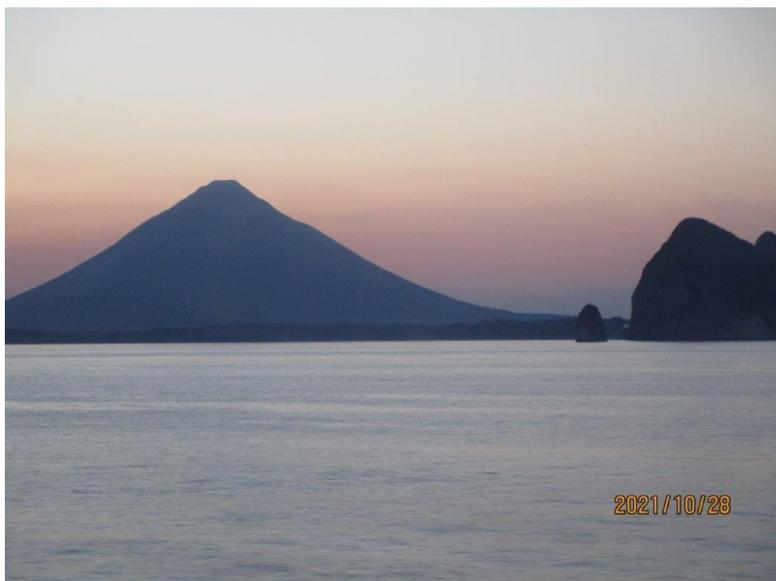
この旅の途中で屋久島から鹿児島まで高速船で移動した際、赤みを帯びた夕空を背景に美しいシルエットを見せてくれた開聞岳にぼれぼれと見入ってしまった。まるで海中からスックと立ち上がったかのようだ。あれが憧れの開聞岳…。

5,6年前だったか、旅行仲間と鹿児島を訪れた時、開聞岳の山麓をドライブした。どこから見ても見事な円錐形。薩摩富士と呼ばれるのにふさわしい姿。いつか登りたいなあ…と。

眼下に海を眺めながら円錐形の斜面をぐるぐると回って登っていくのだと想像していた。まるでバベルの塔みたい！でも、Yさんに「伊藤さんはぐるぐるぐると三回回るようなことを言っていたけど、実際はぐ…の半周だけだよ」と言われた。「え～っ、そうなの？」地図もまともに見ていないことがばれてしまった。で、実際に登ってみると、登山道には樹木が密集していて、海が見えない。途中の展望台と山頂のみが海を見渡せる場所だった。7合目からは大きな岩がゴロゴロした上りが続いた。緑のドレスをまとった優美な外見からは想像できない厳しさだ。その分、頂上に着いたときの嬉しさは大きかったが。やっぱり富士と名の付く山は登るより眺める方がいいかな？（個人の感想です。）



開聞岳頂上



開聞岳夕景